

## いきものとなかよし 「むしとなかよし」

本単元で育成する資質・能力

(主体性)

問題解決力

チャレンジ精神

(表現力)

思いやり

自己理解

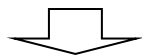
- 1 日時 令和2年9月16日(水) 2時間目
- 2 学年 1年1組 男子 16名 女子 17名 計 33名
- 3 単元について

## (1) 児童観

本学級の児童は1学期の生活科で、学校探検やあさがおの栽培、観察、水遊び等に意欲的に取り組んだ。これらを通し、生活科の学習が体験や活動を中心としながら、表現活動をしたり、友だちと交流したりする学習であることを学びつつある。

生き物との触れ合いについては、校庭で遊ぶ中で、上学年の児童に刺激を受け、畑にいるモンシロチョウの卵やさなぎを見付けたり、草むらにいるバッタやありを見付けたりして楽しんでいる児童もいる。児童アンケートによると、33名中9名が「虫は苦手である」と回答し、「虫は好きである」と回答した24名の児童についても、「虫を飼育したことがある」児童は10名であった。このことから、学級の約3分の2の児童は虫の飼育経験がないことが分かる。

表現力については、観察の記録等で、形、大きさ、数等の視点を決めたり、「○○みたい」という比喩表現を示したりすることで進んで表現できる児童が多い。しかし、意見の交流の場になると、自分の気づきや考えたことを表現できる児童は一部であり、課題がある。



## (3) 指導観

指導にあたっては、学校にいる生き物に触れ合える機会を設けたり、生き物に関する本を読み聞かせしたりしながら、児童が生き物への関心を持ち、自分でも飼ってみたいという気持ちをもてるようにする。ここでは、児童が1学期から中庭等で遊んでいるときに興味をもっているバッタやダンゴムシ等の虫を学習対象としたい。

虫を飼育する中では、「すみやすい家をつくってあげたい」「元気に育ててほしい」といった一人一人の思いや願いを大切にしながら継続的に関わっていくようにする。さらに、飼育を通して児童が、虫の成長や変化の様子を他の虫と比べたり、予想して見通しを立てたり、自らの働きに対してどうだったかという反応や結果を確かめたりできるよう、教師が掲示等の環境構成を工夫する。また、気付いたことを表現したり伝え合ったりする活動を通して、気づきの質を高めていくようにする。

このような、児童が話したくなる環境の構成や、場の設定をすることで、どの児童も友だちに自分の思いや考えを話す経験をさせ、表現力の育成につなげていきたい。

なお、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図る視点からも指導を工夫したい。「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を踏まえ、児童のこれまでの経験を生かした活動をするを大切にしたい。また、児童の意識や思考の流れを重視し、児童が主体となる活動にすること、友だちと協働して学ぶ活動の場づくりをすること、一人一人の思いや願いを教師が見取り、支援していくことを大切にしたい。

## (2) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説生活編の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」を受けて設定したものである。

1学期には、あさがおの栽培活動の中で、児童は「もっと元気に育ててほしい、きれいな花をさかせたい。」という思いや願いをもって継続的に世話をした。自分の育てているあさがおに繰り返し関わる活動を通して、日々の成長や変化に気づき、愛着を深めていった。

この経験を本単元でも生かし、児童一人一人が自らの手で継続的に生き物を飼育することを経験させたい。この活動を通して、生き物も自分たちと同じように生命があること、成長していることに気付くとともに、どんな生き物に対しても、関心をもって働きかけようとする姿につなげていきたい。



#### 4 単元目標

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

#### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、身近な動物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	身近な動物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。

#### 6 他学年等との関連

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」 との関わり（特に関連が見られる姿） <ul style="list-style-type: none"><li>・自然との関わり・生命尊重</li><li>・言葉による伝え合い</li><li>・自立心</li><li>・思考力の芽生え</li><li>・協同性</li></ul>
---

#### 第1学年

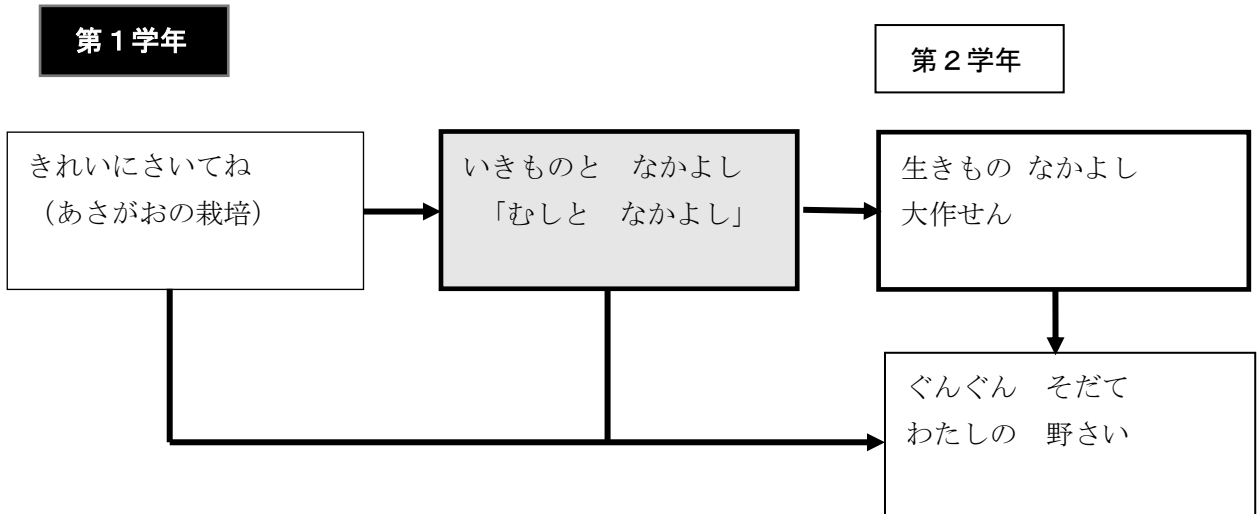
きれいにさいてね  
(あさがおの栽培)

いきものと なかよし  
「むしと なかよし」

#### 第2学年

生きもの なかよし  
大作せん

ぐんぐん そだて  
わたしの 野さい



7 指導と評価の計画（全 10 時間 本時 9 / 10 時間）

時間	学習活動		評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	むしを みつけよう	○これまでの虫を見付けたり、捕まえたり、飼育したりした経験について話し合う。			自分の経験を想起し、進んで話したり、友だちの話を聞いたりしている。（発言・行動観察）
2 3 （常時活動含む）		○学校や近くの公園で虫を見付け、図鑑で名前を調べたり、見付けた虫を記録したりする。	虫の餌の食べ方や隠れ方、からだの特徴など虫の様子について友だちに話したり、記録したりしている。（ワークシート、行動観察）	虫のすんでいる場所を考えて虫を探したり、捕まえ方を工夫したりしている。（ワークシート、行動観察）	自分から進んで虫を見付けたり、見付けた虫のことを図鑑で調べたりしている。（ワークシート、行動観察）
4 5 （常時活動含む）	むしと なかよくなろう	○自分が飼いたい虫を決め、友だちと一緒に、すみかを整えたり、餌を用意したりしながら世話をする。 ○世話をしながら気付いたことを記録したり、気付いたことや困っていることについて友だちと話し合ったりする。	虫が変化していることや、生命をもっていることに気付いている。（ワークシート、行動観察）	餌やりや掃除などをしながら虫の様子を観察し、虫に合わせた世話をしている。（ワークシート、行動観察）	進んで虫の世話の仕方を調べ、実践しようとしている。（発言・行動観察）
6 7 8	むしのことを しらせよう	○自分が仲良くなった虫のことを紹介するための準備をする。	虫が変化していることや、生命をもっていることに気付いている。（表現・行動観察）	餌やりや掃除などをしながら虫の様子を観察する中で気付いたことを、友だちに伝えようとしている。（表現・行動観察）	友だちと協力しながら紹介するための準備をしている。（発言・行動観察）
9		○仲良くなった虫のことを紹介し合う（本時）	虫が変化していることや、生命をもっていることに気付いている。（表現・行動観察）	虫の種類による、成長の様子やからだの特徴、世話の仕方の違いについて考えている。（表現・行動観察）	友だちの発表を興味・関心をもって聞いている。（発言・行動観察）
10		○虫を育てたことを振り返る。			虫の世話について振り返り、これからも生き物を大切にしようとしている。（ワークシート、行動観察）



(4) 準備物

- ・ 掲示物
- ・ 学習の過程で児童が書いたワークシート

(5) 板書計画

④ 「むしとなかよくなったよ」はっぴょうかい  
をして、もっとむしのことをしろう。

虫の名前

虫の名前

虫の名前

虫の名前

虫の名前

⑤

- ・ むしには ひみつが いっぱいある。
- ・ 「〇〇」と「〇〇」のおせわのしかたがちがう。
- ・ これからも もっと むしとなかよくなりたい。